

カバーデザイン／イラスト 永野徹子

## はじめに

「性教育をやめませんか？」

同僚のこの発言に、空いた口がふさがらなくなったのは、養護学校の教員になって5年目の春でした。当時、私の勤めていた学校では、年間3時間程度は性教育の時間を確保するということが慣例化していて、生徒たちの実態を考えたらあたりまえのことと軽く受け止め、性教育をしていました。そんななかでのこの発言に、十分な反論ができなかった自分がいました。私は、これを機会に、人間の性や性教育について、ゼロから学び直さなくてはならないという思いを強くもち、まさか後に自分が代表になるとは思わずに、“人間と性”教育研究協議会（性教協）の障害児サークル（現在は障害児・者サークル）に入会し、本格的に障害のある子ども・若者の性と生についての学びを始めました。

2005年3月4日の参議院予算委員会で、与党議員がある市の教育委員会が発行している性教育の副教材の一部を取り上げ、非常に過激であり許せないという主旨の質問をしました。これに対し、当時の小泉純一郎首相は「これは私も問題だと思いますね」「我々の年代では教えてもらったことはありませんが、知らないうちに自然に一通りのことは覚えちゃうんですね」と答弁しました。小泉氏は私の父と2歳ちがい、長男の孝太郎氏と私が4歳ちがいなのですが、たしかに「教えなくても、自然に一通りのことは覚えちゃう」という感覚を父親世代はもっており、そして私たちの世代は、この言葉の通り、なにも教わってこなかったように思えます。

私自身が「学び直し」をしていくと、「自然に覚えた一通りのこ

と」と、「障害児サークルに出会った後の学びのなかで得たもの」を比較すると、自然に覚えた一通りのことは、誤解と偏見に満ち溢れていることが徐々に明らかになりました。それは、同時に、発達にさまざまな困難を抱え、よりていねいな性教育を必要とする子ども・若者と向き合う仕事をしていた私が、その誤解や偏見にもとづいた性教育をおこなっていたという事実を突きつけられたということでもあります。

私自身がどのように性に関する知識を得てきたかを思い出してみると、愕然となります。私は、ある中高一貫の男子校出身なのですが、当時（1980年代後半）の男子校で育まれるセクシュアリティがどのようなものであったか想像できますでしょうか？ あくまでも私の通っていた学校だけなのかもしれませんが、とにかく、おもしろい先生＝エロい話をしてくれる先生だった記憶があります。授業の肝心な内容はほとんど記憶に残っていませんが、「おもしろい先生」がしてくれたエロ話の内容は、今でも脳裏に焼き付いています。

たとえば、当時「ノーパン喫茶」なる業態の風俗店がありました。ノーパン喫茶での正しい鏡の使い方を力説していた化学の先生、「全種類の風俗店を制覇した」と豪語する地理の先生の顔は30年近くを経た今でもハッキリ思い出せます。英語の時間に「受動態」を習いますが、「やる方が能動態で、やられる方が受動態。ようするに、能動態は男で受動態は女」という説明をされました。今なら「炎上」するような発言ですが、当時、私の通っていた「男子校」では、こんな教師の発言は頻繁にありましたし、それを「問題」とする風土はなかったかと思います。

こんな環境で育った私ですので、今思えば、思春期から青年期前半にかけて育まれた私自身のセクシュアリティは「ゆたか」とは正

反対のものであったことはまちがいありません。ただ一つ、こんな育ちを経験した私だから言えることは、おとなになってから「学び直す」ことは不可能ではないということです。おそらく、日本の多くのおとなたちは、程度の差はあれ、人間の性について十分な学びをした経験がないかと思います。むしろ、誤りだらけの「自然に覚えちゃった一通りのこと」で止まっている人も多いのではないのでしょうか。そういう意味では、おそらく、「学び直す」ことは、日本中のほとんどのおとなたちの課題のように思えます。

本書は、2019年4月から2020年3月にかけて『みんなのねがい』に連載した「ゼロから学ぶ 障害のある子ども・若者のセクシュアリティ」に、加筆・修正をしたものです。ただし、第11章と補章は書き下ろしです。障害のある子ども・若者に関わるみなさんにとって、セクシュアリティの教育や支援というのは常に頭を悩ませているところかと思っています。そんななかで、私自身がゼロから学び直してきたことを少しでも、読者のみなさんと共有していければという思いを込めて連載を書かせてもらいました。おかげさまで、多くのみなさんから共感や励ましのお言葉をいただき、1年間、締め切りと校正に追われる生活も苦にならずに送ることができました。また、『みんなのねがい』の編集委員や愛読者のみなさまから、たくさんの建設的なご意見もいただきました。可能な限り本書に反映させることで、お礼に代えたいと思っています。

なお、本書で扱う事例のなかには、性質上、出所を明らかにできないものもあります。本質を変えないように一部を改変したり、複数の事例を併せてひとつの事例にしたりするなどしたものもあります。セクシュアリティという大変デリケートなところに関わる事例ですので、この点をご容赦いただければと思います。